

ほほえん de 北播磨

2019 October
令和元年10月

第22号



北播磨総合医療センター
副院長兼看護部長
西岡 三津代

あいさつ

秋晴れのさわやかな10月を迎え、北播磨総合医療センターは7年目のスタートをきりました。北播磨地域の中核病院として多くの皆さまにご利用いただき、感謝いたします。

医療は日進月歩、過去には助からなかった命も、新たな薬や治療法により助かるようになりました。完治は無理でも症状をコントロールできるようになり、平均寿命が伸び、病気と共に生きる時代となった今、本人がどのような人生を送りたいか、どのように人生を終えたいか、真剣に考える時代ともいえます。



皆さんは、ACP(アドバンス・ケア・プランニング)をご存じでしょうか?2018年

3月に改訂されました「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」(厚生労働省)において、ACPの実践・普及が明文化されました。

患者・家族・医療従事者の話し合いを通じて患者さんの価値観を明らかにし、これからの治療・ケアの目標や選択を明確にするプロセスです。厚生労働省は、認知度の向上を図るため、ACPの愛称を『人生会議』と決定し発表しました。

治療の選択やその後の生活について考え、話し合う場や時期があり、その時の主役は患者さん本人です。いざ自身のことになることをえをまとめるのは易しいことではありませんし、家族の事情も考えると本音が言えないこともありま

す。しかし、一度決めたことが絶対でもありません。状況が変わる度に考えが変わって当たり前なのです。医療従事者として常に患者さん本人を真ん中において意思決定支援ができるよう、良き伴走者でありたいと考えています。院内では多職種が専門性を発揮しながらチーム医療を行い、退院後は住み慣れた生活の場へ戻れるよう、地域の多職種の方々とも連携していきます。患者さんが望まれる暮らしができるよう、様々な問題に折り合いをつけながら支援させていただきます。そのために、入院前より退院後の生活を見据えて情報提供をお願いすることがあります。ご協力よろしくお願いたします。

今年も10月最後の日曜日に6回

目の病院フェスタを開催いたします。今回は少し場所も拡大し、新たな企画も準備しておりますので、皆さまお誘い合わせの上、ぜひお越しいただき、より身近に病院を感じてください。職員一同お待ちしております。

今後ともご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

副院長あいさつ	1
ドクターのリレー講座	2
専門・認定看護師リレー紹介	4
チーム・委員会の紹介	5
病院探検ツアー	6
大きくな〜れ	8
今号のトピックス	9
外来診療日程表	10
編集後記 他	12



発行/北播磨総合医療センター
広報委員会(事務局:地域医療連携室内)
兵庫県小野市市場町 926-250
電話 0794-88-8800(代表)
FAX 0794-62-9931
ホームページ <http://www.kitahari-mc.jp/>

～ドクターのリレー講座～ 『精神神経科の紹介』

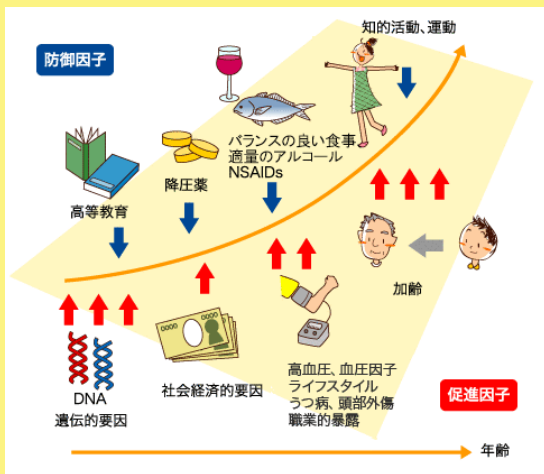
「認知症の予防のお話」



精神神経科主任医長 田中健一



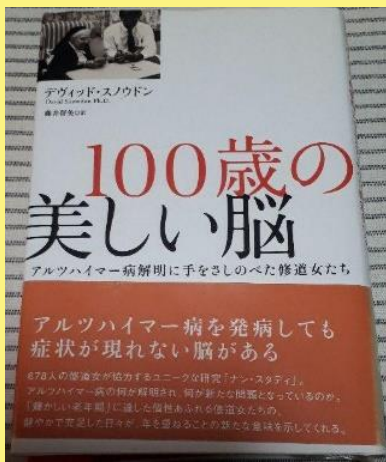
当科では専門外来として『もの忘れ外来』を設け、認知症の診断・治療を行っております。日本の認知症者はおよそ500万人と推定されており、今後はさらに増加が予想されています。認知症はまだ未解明な部分も多く、特効薬もまだありません。それゆえに認知症の予防はまさに急務であるといえます。認知症の予防には予防できることと予防が難しいことがあり、それぞれの危険因子もライフステージごとに異なっています。今回は認知症の予防についてお話をしたいと思います。



【認知症は予防できるの?】

老化防止といっても老化を止められないのと同じように「〇〇をやったらボケない」という認知症予防法は残念ながらありません。しかし、

「発症へのスピードを遅らせる」、「発症年齢を遅らせる」といった意味での認知症予防法はあります。認知症予防を考える上で重要なヒントとなる研究があります。それは修道女（ナン）のシスターを対象にした調査で、「ナン・スタディ」と呼ばれている研究です。生活にバラツキがないナンのシスターを対象に生活状況を調べ、年に一度は定期的に身体と認知機能検査を行い、亡くなったら解剖して脳の状態を調べるといった研究内容です。この研究で明らかとなったのは脳にアルツハイマー病の病変があっても、必ずしも認知症を発症するわけではないということでした。毎日規則的で自分の役割を演じながら生活することが脳のアルツハイマー病変に打ち勝っていたのではないかと考えられています。



【こんな人は認知症になりやすい】

認知症の発症には生活習慣が大きく関係しています。毎日が日曜日の

人（一日中テレビを見ながら「ゴロゴロ」など）、生活習慣病のある人（脳卒中は血管性認知症、糖尿病と高血圧はアルツハイマー型認知症のリスクです）、肥満・メタボリックシンドロームの人、脂っぽい食事が好きな人、アルコールを飲みすぎる人、喫煙している人。という人たちは認知症になりやすいと言えるでしょう。

【認知予備力とは】

「認知予備力」とは私たちの脳神経細胞同士の結びつきの強さを意味し、認知症の危険因子（アミロイドの沈着、レビー小体の沈着など）に対抗する力です。簡単に言いますと、老化や認知症の原因となるものから私たちを守ってくれる免疫力のようなものです。老化や病気で脳神経細胞が減っても「認知予備力」が強ければ、物忘れは悪化しません。

【認知予備力を強くしよう】

「認知予備力」を強くできるかどうかは私たちの普段の生活のあり方で決まってきます。「認知予備力」を強くする生活習慣は大きく分けて5つの柱からなっていますので、1つずつ解説していきます。

① 知的活動

骨や筋肉と同じく、脳も使えば使うほど強くなり、使わないでいると弱くなります。人を相手として偶発

的な出来事に臨機応変に対応する活動は「認知予備力」を高めると言われています。1人でする活動（クロスワード、パズルなど）より複数でする活動（囲碁、将棋、チェス、トランプ）がよりよいです。笑いや笑顔で脳にドパミンが増え、記憶力や学習力や意欲がアップします。する人もさせる人も、ともに楽しく一緒に行い、褒め合えるような課題ならなんでもよいでしょう。

②有酸素運動

運動は身体の健康だけでなく、脳の健康にも効果があります。有酸素運動は脳血流を増加し、脳神経細胞を活性化してくれます。30分程度の散歩やサイクリングのような汗ばむ程度の軽い運動がよく、週3回など習慣化して持続することが大事です。人と一緒に行う競技性のある運動（ダンス、テニス、ゴルフなど）は

「認知予備力」をより強化するともいわれています。「運動がアルツハイマー型認知症の予防に有効」という研究結果は多くあり、予防効果は明確です。

③社交性

友達や仲間との交流といった社会的接触が認知症予防に有効であり、積極的に友人や家族と楽しく過ごすことが大切です。フランスの学者の研究では「旅行を



愛する65歳以上の人は認知症になりにくい」という研究結果があります。また、「定年退職後にひきこもりがちになった人」「熟年離婚した人」はどちらも認知症になりやすいという研究結果もあります。

④食生活

認知症予防によいといわれている食品・成分には青魚に多く含まれる不飽和脂肪酸（DHA、EPA）、赤ワインやカレーなどに含まれるポリフェノール、緑黄色野菜や果物に豊富に含まれる抗酸化ビタミン（ビタミンE、ビタミンC、βカロテン）などがあります。しかし、栄養素だけにこだわらず、栄養バランスよく食べることで大切です。また、サプリメントでは予防になるというデータはありませんので、食事から摂取するのが基本です。

久山町研究でわかった認知症予防のための食事

増やすといいもの

- 牛乳・乳製品
- 大豆・大豆製品
- 緑黄色野菜
- 淡色野菜
- 海藻類
- 果物・果物ジュース
- イモ類
- 魚
- 魚卵

減らすといいもの

- お米
- お酒

※お米が認知症に悪いわけではない。おかずをたくさん食べるために、ご飯の量を減らすのが望ましい（清原裕教授の資料を基に作成）

大規模な研究では地中海食事法（魚中心のオリーブオイルを多用す

るギリシャのクレタの伝統的な食事法、和食・フランス牛乳と乳製品が認知症予防に良い食事とされています。地中海食事法と伝統的な和食のメニューは似ていますので、和食中心で減塩を心がけ、乳製品を多めにすることを心がけるとよいでしょう。



⑤心身の健康

肥満、メタボリックシンドロームは認知症のリスクを高めると言われています。ストレスは神経細胞にダメージを与え、アルツハイマー病の病変を加速して認知症になりやすくするとも言われています。高齢期のうつ病は認知症のリスクを約2倍に高めるといいう研究結果もあります。前向きに考える心で生活をしていくことが大切です。運動、日光を浴びる等はうつ病の予防にも効果的です。

メタボリックシンドローム判定基準

ウエスト
男性…85cm以上 女性…90cm以上
しかも…

血圧
最高血圧 130mmHg以上、
または最低血圧 85mmHg以上

血中脂質
HDLコレステロール 40mg/d未満
または中性脂肪が150mg/d以上

血糖
空腹時血糖値 110mg/d以上

の3項目のうち
2項目以上に該当する方。

【さいごに】

いろいろな認知症予防法を解説してきましたが、これらの認知症予防法は疫学研究や動物実験等によって有効性が確認されたものです。しかし、研究や実験の信頼性はそれぞれ異なるため、認知症予防法の推奨レベルも異なってきます。予防の一押しといえるのは「運動」です。運動以外で推奨レベルが高いものとしては、「地中海食事法」、「肥満防止」、「ストレスを避ける」などがあります。これらいずれかの一つでもあれば効果が生まれるというものでもなく、すべてをバランスよく実行することで効果が得られると思われま。また、認知症の予防には認知症の早期診断・早期治療もとても大切です。心配なことがあれば『もの忘れ外来』でぜひ相談をしてみてください。

手術看護認定看護師とは

手術侵襲を最小限にし、二次的合併症を予防するための安全管理(体温・体位管理、手術器材・機器の適切な管理等)と周手術期(術前・術中・術後)における継続看護の実践です。

手術の決定から回復期の周術期を視野に入れ、熟練した看護実践を行い、患者さんが安心して手術が受けられるように関わっていきます。

～専門・認定看護師の活動リレー紹介～

手術看護認定看護師の巻

手術室 主任看護師 長谷川 陽子



主任看護師 柿本 真喜子



私たちは、7月に手術看護認定看護師の資格を取得しました。共に他施設での経験も含めて、10年以上手術看護に携わってきました。手術室では、患者さんの意識がある状態での関わりは、病棟と比較するとわずかしかなかったり、経験が浅い頃は、この少ない時間の関わりに看護の喜びを見出そうとしていました。その当時、術後患者さんのもとに訪問し、手術室でのことを尋ねると、「部屋に入ったところぐらいまでしか覚えていない」「知らないうちに終わっていた」と言われることが大半でした。自分の行った看護が患者さんに届いていないように感じ、やりがいを見失いそうになったこともありましたが、悶々とした気持ちで過ごしていたある時、患者さんから言われた言葉に改めて手術室看護師の役割を考えるとよくなりました。術前訪問にお伺いすると患者さんが、「もうお任せするしかありません」と話されたのです。この言葉には手術中、私達医療者に命を任せるしかないという意味が含まれているのだと気づきました。私達



ちが判断し実践する術中の看護が患者さんの回復過程に大きな影響を及ぼします。看護師としてその回復過程を予測して関わるのが重要ではないかと、考えるようになり、知識の習得と自分自身の視野を拡げたいと思い、認定看護師をめざしました。認定看護師教育課程では、看護に関する最新の知識と技術をもつことが、手術の侵襲を最小限にできるということ。術前、術中、術後と患者さんが日常生活に戻っていくことができるまでを責任をもって看護する重要性を学びました。全身麻酔で手術を受ける時には、意識がないために自ら身体を動かすことができません。ですから手術中は患者さんの代弁者となれるように、言葉で訴えられていなくても予測して二次的合併症を防ぎます。例えば、術式に伴う体位で神経が圧迫されて麻痺を起したり、皮膚が圧迫したり、ずれることや褥瘡(床ずれ)を生じないように体位を工夫したり、体圧を分散できるクッションなどを用いて、長時間の圧迫を避けるよう



にケアを行っています。近年、医療技術の進歩により、当院でもロボット支援手術なども数多く行われています。また、高齢者や複数の疾患(合併症)を持つ患者さんも手術が可能になっています。当院の昨年度の手術件数は5,334件で、1日平均約29人の方が手術を受けられています。手術看護認定看護師は、患者さんが納得して手術が受けられるよう医師からの術式や合併症の説明に加え、その患者さんが人生で大きな決断をして、手術に臨むことができるように、情報の提供や精神的な援助も行います。認定看護師として第一歩を踏み出したばかりですが、患者さんの手術後の生活まで見越した看護ができるよう取り組んでいきたいと考えています。



～チーム・委員会紹介～

「薬事委員会」の活動を紹介します！



薬事委員会は、2ヶ月に一度開催し、次に掲げる事項を検討しています。

- (1) 医薬品の評価及び採否に関すること。
- (2) 医薬品の適正な使用に関すること。
- (3) 医薬品の情報収集及び啓発に関すること。
- (4) 医薬品の効率的な購入及び使用に関すること。
- (5) 抗菌薬の種類、用量等について定期的な見直し。
- (6) 後発医薬品への検討と周知。
- (7) その他、薬事業務の円滑で効率的な運営に関し必要な事項



メンバーは、診療部に属する職員、診療支援部に属する職員、看護部に属する職員、医療安全管理室に属する職員、管理部に属する職員から構成されています。

主な活動内容

(1) 医薬品の評価及び採否に関することについて

医薬品の採用を決定する際には、診療各科の特徴を踏まえ、医薬品の安全性・取り間違い防止の観点から以下の事項を検討した上で採用を決定します。

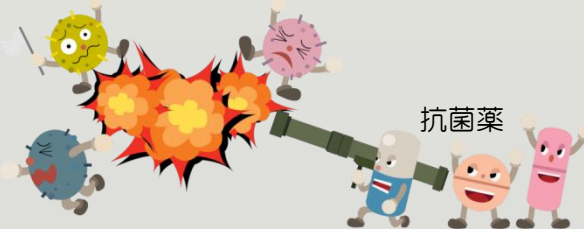
- ① 一成分一品目を原則とし、採用医薬品は最低限の数とする。
- ② 同種同効薬と比較検討を行う。
- ③ 類似した名称や外観を持つ薬の採用は、極力回避する。採用の必要性ある場合は、特に注意を喚起する。

また、薬事委員会では、申請を提出した医師により、使用実績、使用成績、副作用等が報告され採用を検討します。2ヶ月に一度の委員会で採用の検討が出来ないときは、さらに延長、もしくは申請が取り下げになります。

(5) 抗菌薬の種類、用量等について定期的な見直しについて

感染対策委員会、抗菌薬適正使用支援チームと共同で以下の取り組みをしています。

- ① 院内で指定した医薬品を使用する場合は、特定抗菌薬使用届けの提出。
- ② 許可申請が必要な医薬品を使用する場合は、抗菌薬使用許可願いの提出。
- ③ 適正な抗菌薬の使用を支援するため、抗菌薬の種類の見直し。



(6) 後発医薬品への検討と周知について

国の医療費削減による施策に沿って、後発医薬品への変更、採用の検討を行っています。

後発医薬品への変更には、大きさをはじめとする服用しやすさ、安定供給、製品名印刷等変更による不利益が無いように市場調査、外観、品質等を調査しています。



2ヶ月に一度の薬事委員会での検討が間に合わないときには、臨時に検討し、院内で使用される医薬品の安全、安心な使用・供給のため採用薬品を検討しています。

★病院探検ツアー

【5階西病棟を紹介します】

～患者さんや家族の思いに寄り添える看護を実践し、
安心して退院できるように支援しています～



5階西病棟に入院される患者さんは整形外科の方が多く、次に消化器系疾患の患者さんが多く入院されます。整形外科では、上肢・下肢・脊髄の骨折や損傷など手術や保存的治療（牽引・ブロック、シーネ、ギブス、安静）また、消化器系疾患では内視鏡検査や治療、手術、放射線治療などさまざまな治療が行われています。

《整形外科回診》

毎週月曜日にある整形外科カンファレンスでは整形外科医師、看護師、療法士で患者ひとりひとりを診察し治療経過について情報共有しています。



《勉強会》

医師の協力のもと勉強会を開催しスタッフが同じレベルで看護ができるように日々スキルアップに心がけています。



《カンファレンス》

チームで情報共有し、患者さんやご家族の思いに添った看護が実践できるようにカンファレンスを実施しています。



看護師カンファレンス



地域医療連携室スタッフと
合同カンファレンス

《整形外科》



体幹ギブス巻き



オルソカラー



鋼線牽引



CPM (持続的関節他動訓練機)



薬剤師



療法士

看護補助員さんと病棟クラークさん



病棟看護師



5階西病棟では、医師、看護師、療法士、薬剤師、地域医療連携室の職員と連携し、患者さんが安心して退院後の生活が送れるように支援しています。

★★★ 大きくな～れ ★★★



～2人目のお子様を出産！みんなで外に出て遊びに行くのが楽しみです！！
年の差もちょうどいいし、
男の子と女の子っていうのもいいです～



微笑ましい「家族の支え」を紹介します

8月吉日、花中美咲さんが2人目のお子様を出産されました。ママに似た可愛い女の子です。花中さんは1人目のお子様も当院で出産されており、元気な男の子へとすくすくお育ちになっているそうです。



「お産ってこんな感じだったっけとびっくりするくらい1人目の時よりは楽でした。いきみを逃す時間も短かったし、お産後の痛みもほとんどなくて。1人目のときと全然違いますね。同じ病院で産めたことも良かったですし、誘発分娩で日も決まっていたので気持ちの準備もできました。」と笑顔でお産のことについて話してくださいました。また、「助産師さんが声をかけてずっと支えてくださったので乗り切ることができたのだと思います。」と嬉しいお言葉もいただきました。



「妊婦健診では赤ちゃんが少し小さめかもしれないと言われていましたが、産まれてすぐに元気な声で泣いてくれたのでほっとしました。」と赤ちゃんが元気に産まれてきてくれたことをとても喜ばれていました。2歳になる上のお子様も面会時には赤ちゃんを指さしたりするなど、すでに興味が湧いている様子だそうです。「外に出てみんなで遊びに行くのが楽しみです。年の差もちょうどいいし、男の子と女の子っていうのもいいですね。特に主人は男兄弟で育ったので、女の子が産まれたことをとても喜んでいきます。」と家族が増えた事への今後の楽しみについても話してくださいました。

「妊婦健診では赤ちゃんが少し小さめかもしれないと言われていましたが、産まれてすぐに元気な声で泣いてくれたのでほっとしました。」と赤ちゃんが元気に産まれてきてくれたことをとても喜ばれていました。2歳になる上のお子様も面会時には赤ちゃんを指さしたりするなど、すでに興味が湧いている様子だそうです。「外に出てみんなで遊びに行くのが楽しみです。年の差もちょうどいいし、男の子と女の子っていうのもいいですね。特に主人は男兄弟で育ったので、女の子が産まれたことをとても喜んでいきます。」と家族が増えた事への今後の楽しみについても話してくださいました。



ママ、パパ、お兄ちゃん達からたくさんの愛情を受け、「大きくな～れ」とスタッフ一同赤ちゃんの成長を心から願っています。

4階東病棟 スタッフ一同





職員防災訓練実施される！

去る9月20日（金）に本年度第1回目の職員防災訓練が実施されました。訓練は、「夜間に地震により火災が発生した」と想定し、マンパワーが不足する条件下での職員の対応力・判断力・行動力を養うことを目的として行われました。

7階東病棟の看護師、医師をはじめ各所属より選抜された職員ひとりひとりが真剣に訓練に取り組み、万一の災害時の対応に対し学んだ知識を各所属へ持ち帰り情報を共有することを確認し合い、訓練を終了しました。

また、想定訓練に先がけ、病棟裏駐車場を利用して消火器の取り扱い訓練も行いました。



休憩・談話コーナーの改修工事完了！

7月より来院の皆様には大変ご迷惑をおかけしていましたが「休憩・談話コーナー」が装いも新たに10月15日（火）より使用開始となります。診察の待ち時間や休憩の場所としてお気軽にご利用ください。



今年も10月27日（日）に病院フェスタを開催します

場所：北播磨総合医療センター（玄関ホール、1・2階外来ホール）
 内容：健康講座、演奏会、院内見学ツアー、健康チェック、健康相談など役にたち、そして楽しく、興味あるブースが目白押し！！

～ 皆様のご来場をお待ちしています！ ～



外来診療日程表

※初診の際に必ず予約が必要な診療科

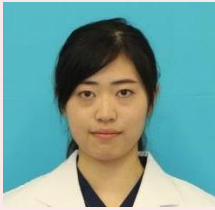
外来受付時間は、初診：午前8時30分～11時30分、
再診：午前8時～11時30分。診察開始時間は午前9時からです。
午後は予約のみの診察となります。

【令和元年10月1日現在】

診療科		月	火	水	木	金	備考	
総合内科、老年内科	午前	山田	渡邊	原	横野	門脇	予約のみ(初診紹介予約)	
		西山	担当医	渡邊	安友	内山		
				緩和ケア外来 (山名)				
循環器内科	午前	高見	粟野	山田	山田	吉田	再診(予約のみ)	
		田頭	平石			平石		
		不整脈センター 外来(吉田)	津田		山脇	粟野		高見
		山脇		寺下	田頭			
					藤田			
	午後				浪花	ペースメーカー外来	予約のみ	
消化器内科	午前	大瀬	田中	佐貫	家本	吉江	予約のみ	
			森川					
		森川	佐貫	田中	吉江	大瀬	再診(予約のみ)	
呼吸器内科	午前		松本	立原	桂田	堂國	予約のみ	
			高月		松本	高月		
						金城		
腎臓内科	午前	清水	北村	岩崎	腹膜透析外来	金銅(第1・3・5週) 西(第2週) 藤井(第4週)	予約のみ	
		午後				腹膜透析外来	予約のみ	
糖尿病・内分泌内科	午前	安友	安友	西山	西山	担当医	初診の方の診察は 総合内科・老年内科にて 対応いたします。 受付にてご確認ください。	
		原	山田	小川	勝二	高吉		
		浦井	向田					
脳神経内科	午前	担当医 (初診のみ)	下村 (再診のみ)	濱口 (再診のみ)	小田 (再診のみ)	濱口 (初診のみ) 古東 (再診のみ)	予約のみ(初診紹介予約)	
				古東	下村			
	午後	濱口 (再診のみ) 小田 (再診のみ)	細見	濱口 (再診のみ) 古東 (再診のみ)	小田 (再診のみ) 下村	担当医 高田	予約のみ(初診紹介予約)	
				中野 (再診のみ)		ポトックス外来 神経生理外来	予約のみ	
血液・腫瘍内科	午前	杉本	大幡	今村 (腫瘍)	竹中	杉本	予約のみ	
					大幡			
リウマチ ・膠原病内科	午前	土橋	三崎	井上	山本	三崎	木曜日: 予約のみ	
		関節エコー外来					予約のみ	
	午後	土橋	三崎	井上	山本	井上/土橋 (第1・3・5週/第2・4週)	予約のみ	
外科、消化器外科	午前	御井	柿木	黒田	村田	黒田	再診のみ	
		岡本	荒井	王子	横尾	藤中		
乳腺外科	午前		岡		岡		予約のみ	
ストーマ外来	午前	森田	森田	森田 (初診)	森田	森田 (初診)	予約のみ (担当: 皮膚排泄ケア認定看護師)	
	午後	ストーマケア相談 (第1週)					電話相談のみ(13:00～16:00)	
整形外科	午前	今泉	瀧川	新倉	高畑	大西	予約のみ(初診紹介予約)	
		瀧川	新倉	今泉		高畑	再診(予約のみ)	
		手術処置		手術処置	手術処置	手術処置	予約のみ	
	午後			スポーツ外来 (新倉) スポーツ外来 (今泉)		脊椎外来 (高畑)	予約のみ	
呼吸器外科	午前		高田 (再診のみ)		高田		予約のみ	
心臓血管外科	午前	麻田 (予約のみ)	顔	麻田		顔	予約のみ	
	午後	麻田	顔	山田		森本		

診療科		月	火	水	木	金	備考
ペインクリニック内科 完全予約制	午前			佐藤			予約のみ
	産婦人科	午前	西井	西井	西井	中野 (受付10時まで)	中野
脳神経外科	午前	山本	三宅		三宅	田中	予約のみ
		三宅	田中		山本	藤田	
	午後	山本	三宅		三宅	田中	予約のみ
		三宅	田中		山本		
形成外科 完全予約制	午前	藤井	藤井	藤井	藤井 (第4週)		予約のみ
		吉岡	吉岡 (再診のみ)	吉岡	吉岡		
		林 (再診のみ)	林	林	林		
	午後	手術 学童外来(16時~)	レーザー外来	創傷外来	手術		第1~4水曜日はくつ外来併設 (予約のみ)
		レーザー外来 学童外来(16時~)	手術	創傷外来			予約のみ
小児科	午前	川崎	竹中	川崎	竹中	松野下	予約のみ
		山本	田中/元生	松野下	神戸大学	徳田	
	午後	アレルギーⅠ (竹中)	循環器外来 (こども/徳田) (第2週)	アレルギーⅡ (松野下)	小児外科 (加古川/川崎) (第2・4週)	腎外来 (松野下)	予約のみ
		内分泌(山本) (第1・3週)	心エコー(徳田) (第1・3・4・5週)	内分泌 (山本)	神経 (田中)	発達行動 (竹中)	
		神経(田中) (第2・4週)	血液(川崎) (第1・3週)	心身外来 (山辺)	アレルギーⅢ (徳田)	乳児健診 (元生/山本)	
		予防接種 (元生/徳田)	発達初診(竹中) (第2・4週)				
眼科	午前	中村	松本	福田	中村	中村	再診のみ
			神戸大学	硝子体注射 (予約のみ)		福田	
			硝子体注射 (予約のみ)			松本	
			福田	松本	神戸大学		
	午後		黄斑外来(楠原) (第3週)	角膜外来(長井) (第4週)		斜視・弱視外来 (第1・3週)	予約のみ
			検査・レーザー	検査・レーザー		コンタクト外来 (第2・4週)	
耳鼻咽喉・ 頭頸部外科 予約以外の受付は11時まで	午前	横井		山本 (予約・紹介のみ)	横井		予約のみ
		山本 (予約・紹介のみ)		上田	上田		
		上田		横井	山本		
	午後	上田		横井			予約のみ
		山本		処置外来	処置外来		
	免疫アレルギー 外来			免疫アレルギー 外来			
皮膚科	午前	岡	熊野	岡	岡	神戸大学	
泌尿器科 予約以外の受付は10時まで	午前	武市	田中		宮崎		再診(予約のみ)
			宮崎		武市		
	午後	武市	田中		宮崎		予約のみ
		松山		武市			
放射線診断科	午前		富田 (予約のみ)	足立	宮本 (予約のみ)		
放射線治療科	午前	西川			宮脇	窪田	予約のみ
歯科口腔外科	午前	南川	南川	南川	南川	南川	
		大橋	大橋	大橋	大橋	大橋	
	午後	小手術外来	小手術外来		小手術外来	小手術外来	各担当医(予約のみ)
精神神経科 もの忘れ外来 完全予約制	午前	もの忘れ外来 (田中)	田中			もの忘れ外来 (田中)	予約のみ(金曜日は初診のみ)
			もの忘れ外来 (見市)				予約のみ
	午後	田中	田中				予約のみ
認定看護師相談外来 完全予約制	※	がん看護相談外来 川邊					予約のみ ※9:00~16:00
		感染対策相談外来 高橋					
		慢性病看護外来 畑中(第2週)		慢性病看護外来 畑中(第1・3週)		慢性病看護外来 高橋(第2・4週)	

新しい先生を紹介します



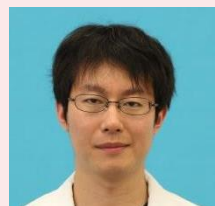
むら お ひと み
村尾 仁美 医師の紹介（10月1日付着任）

整形外科 専攻医 として 村尾医師が着任されました
〈卒業年次〉 平成 29 年



うえ た かし
上田 隆 医師の紹介（10月1日付着任）

耳鼻咽喉・頭頸部外科 専攻医 として 上田医師が着任されました
〈卒業年次〉 平成 29 年



おか もと しゅう じ
岡本 柁志 医師の紹介（10月1日付着任）

臨床研修センター 外科専攻医 として 岡本医師が着任されました
〈卒業年次〉 平成 28 年



まつ はま こう し
松濱 考志 医師の紹介（10月1日付着任）

臨床研修センター 内科専攻医 として 松濱医師が着任されました
〈卒業年次〉 平成 29 年

【退任のお知らせ】 ～お世話になりました～

8月31日付で、脳神経外科 専攻医 **東野 真志** 医師が退任されました。

9月30日付で、耳鼻咽喉・頭頸部外科 医員 **木戸上 知弘** 医師、

整形外科専攻医 **岡田 亮** 医師、

臨床研修センター 外科専攻医 **佐伯 崇史** 医師 が退任されました。



【編集後記】

残暑も緩み、朝晩涼しくなり、ようやく秋らしくなってきた今日この頃です。

月日が過ぎるのものはよいもので、当医療センターがオープンして6年が経ちました。

今回は精神神経科医師より、認知症の予防についての記事がありました。予防法としては、「食生活」や「運動」、「ストレスを避ける」などあり、それらをバランスよく実行する事で効果が得られるようです。

大きくなるとは、微笑ましい「家族の支え」を紹介させていただきました、皆様の心も癒やされたのではないのでしょうか？

10月27日【日】には病院フェスタを開催いたします。様々な楽しいイベントを行いますので、お誘い合わせの上、是非お越しください。

秋は食欲の秋と言いますが、果物やさつま芋など、美味しい食べ物がいっぱいありますが、皆様食べすぎにはお気をつけください。これから寒い時期になり体調を崩しやすくなりますが、お身体ご自愛ください。

栄養管理室

管理栄養士 粕谷 幸司